

6月6日（木曜日）8番東屋周辺・散策路の整備

【参加者：池本、梶川、北、芝田香、芝田美、杉、中、鈴木哲、鈴木明 9名】



私たちモリメイトとよく似た活動をしている「泉佐野緑地グループ」が7月20日に上野森林公園に見学にくることになっている。想定している見学コースの一つである8番東屋周辺の整備をすることにした。



ササユリ
のつぼみ
が膨らむ



枯れマツ4本をチェーンソーで除伐して処理をする、散策路脇の草を刈り払い機で刈る、枯れ枝や蔓をはさみで切る、最後に散策路を掃いてきれいにするなどの作業を行った。8番東屋周辺は緑を通ってくる爽やかな風を感じられる気持ちのいい場所になった。この後の談笑しながらのお弁当とお茶の時間は、モリメイトにとっては至福の時であった。

作業後、男性陣が刈り払い機の刃の手入れをしている間、女性陣はモリメイト花壇にフジバカマの苗を植えた。

6月13日（木曜日）

ササユリを守るためにロープを張り、周囲をきれいにする

【参加者：池本、梶川、芝田香、芝田美、杉、鈴木哲、中、鈴木明 計8名】



公園内のササユリの生息地に1輪つけたものと2輪つけたもの計3輪、淡いピンク色を帯びたササユリが清楚な佇まいで咲いていた。

ササユリは、中部地方から九州にかけて分布する日本を代表するユリである。山地の草原や明るい森林に生える多年草で、種子で増え、発芽してから花をつけるまで7年ほどかかる。森林利用の減少による環境の変化と盗掘被害で数を減らし続けていて、森林公園でも同じような現象が起っていた。しかし、幸いなことに、生息地の周囲には種が落ちて、1枚葉を

付けた1年目のササユリがたくさん育っていた。元気に育つよう、ロープを張り、周囲の草を丁寧に手で刈り整備していった。協力を呼び掛ける看板も立てた。ササユリが増えていってくれることを願いながら。





午後からは湿性植物園のハナショウブの手入れを行った。株の周囲は鎌で、周辺は刈り払い機で草刈りを行った。



以前からあるハナショウブと今年植えたハナショウ

ブが混在しており手入れがしにくいため、移植できる季節になったら手入れしやすいように植え替ようということになった。

**モリメイトフィールドの
ハナショウブが咲き始める**

6月20日（木曜日）ハナショウブが咲き誇る

【参加者：池本、梶川、芝田香、杉、鈴木哲、中、鈴木明 計7名】



モリメイトフィールドのハナショウブが満開になった。

花芯を白と黄色に染めたブルーの花が花菖蒲園を覆うように誇らしげに咲いた。昨年よりも花数も多く、株も充実して豪華である。世話をすれば応えてくれることを実感した。

花菖蒲園の下草が伸びていたので株を傷つけないように鎌で刈っていった。かがんだ姿勢が続くので腰がだるくなる。時々腰を伸ばして花柄を摘み、またかがんで草を刈るということを繰り返した。かなり蒸し暑い。水分補給をし休憩をしながらの作業であった。

午後からは湿性植物園の草刈りを行った。ここでもハナショウブの株を傷つけないよう鎌で刈っていった。



6月27日（木曜日）

モリメイト通信 200号記念冊子完成・モリメイト会議

【参加者：池本、梶川、芝田香、杉、鈴木哲、中、鈴木明 計7名】

雨のため、午前中にモリメイト会議を行って午後からの作業は中止となった。

モリメイト会議では、「森林ボランティア活動支援事業（県民参加の森林づくり運動や環境緑化推進の取り組みを行っているボランティア団体等の活動を支援する事業）申請書」の検討を行ったモリメイトは「クヌギの森作り」で過去4回申請しており今回で5回目である。新しい事業が優先されるということで少し不安はあるのだが意見を出し合い検討し、申請書が出来上がった。7月1日、三重県緑化推進協会に提出。採択されることを祈りたい。

「モリメイト通信 200号発行」を記念して、1号から100号までの冊子と101号から200号までの冊子、2冊が完成。

